

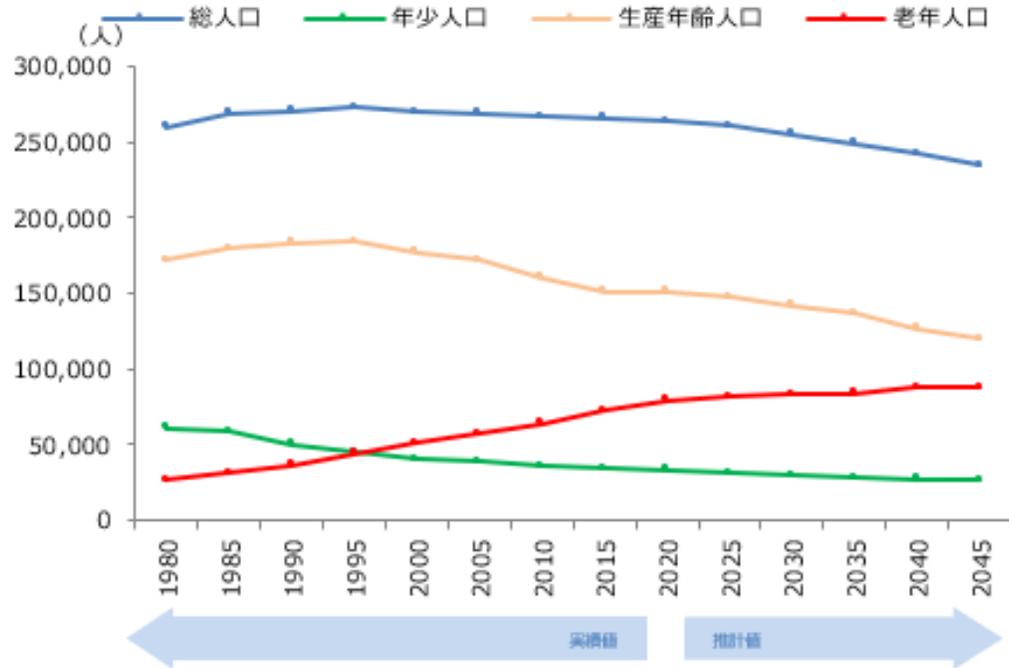
RESASから見える 福井市の姿

福井商工会議所 創業・経営支援課

令和4年3月

人口

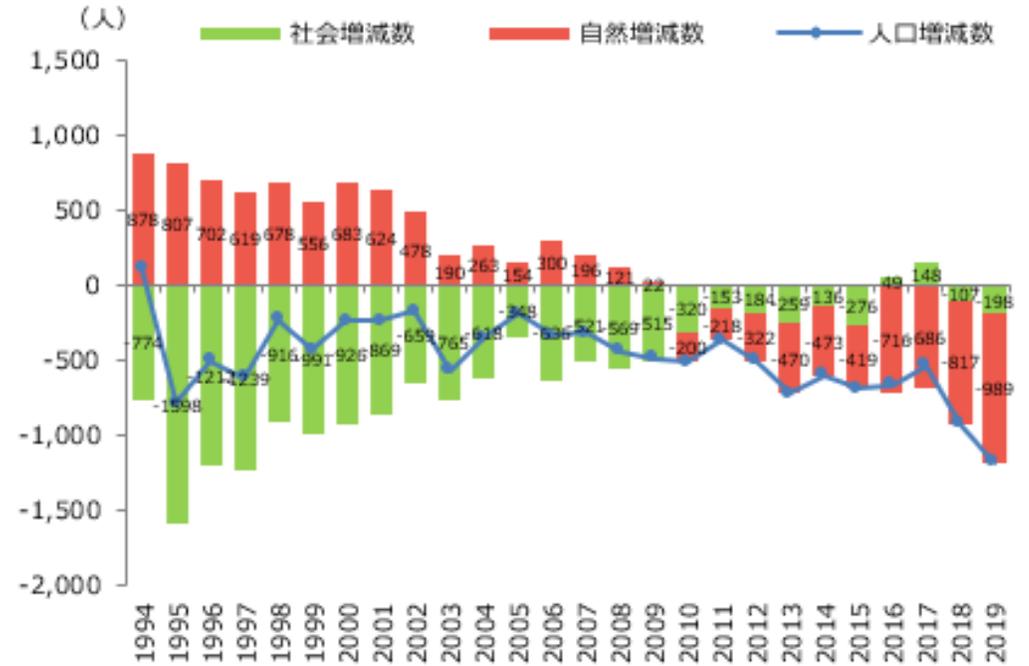
人口推移



【出典】 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】 2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

- ・総人口は、1995年：272千人をピークに減少傾向にある。
- ・推計値で見ても、総人口は減少する見込みにある。
- ・老年人口のみ1980年：26千人から一貫して増加傾向にある。

自然増減・社会増減の推移

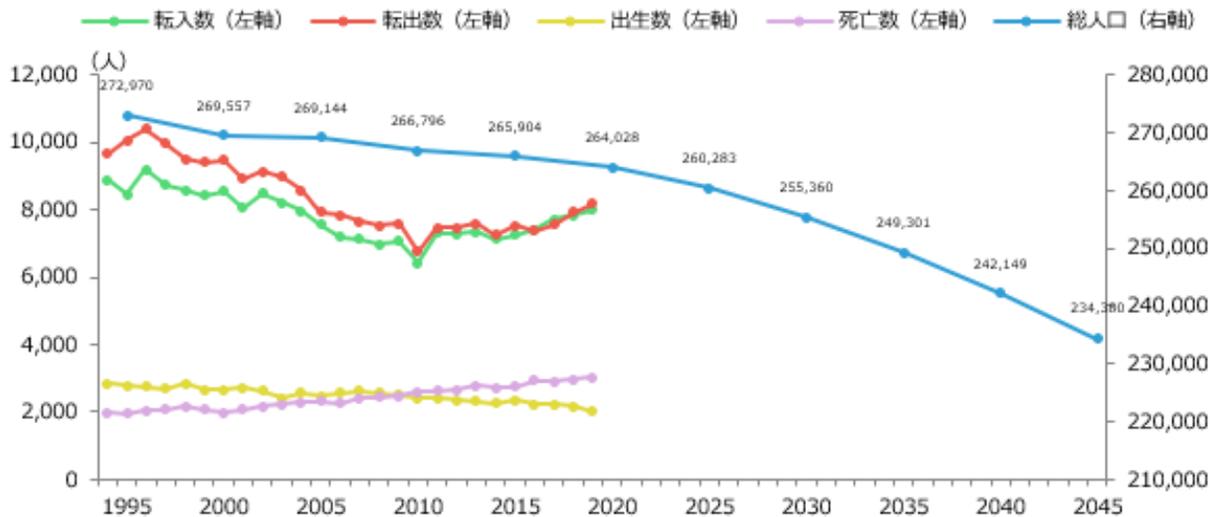


【出典】 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工
【注記】 2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

- ・自然増減数は、1994～2009年の間で増加していたものの、2010年以降では減少。その減少幅は年を追うごとに大きくなっている。
- ・社会増減数は、2016～2017年を除き、一貫して減少している。その減少幅は、年を追うごとに小さくなっている。

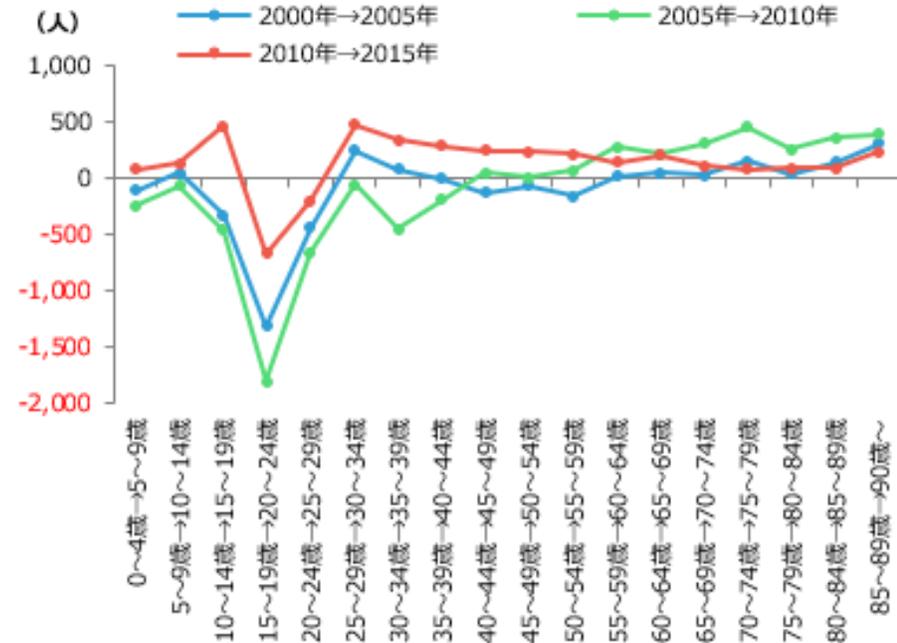
人口増減・地域間流動①

出生数・死亡数/転入数・転出数



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」
 【注記】2015年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

年齢階級別純移動数の時系列推移



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

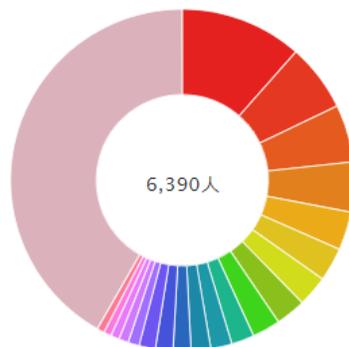
- ・総人口は1995～2015年にかけて一貫して減少。それ以降の推計も減少傾向にある。
- ・死亡数は1995年：1,964人から2019年：3,016人まで、年間で約1,000人増加している。
- ・出生数は1995年：2,771人から2019年：2,027人まで、年間で約750人減少している。

- ・いずれの推移も「15～19歳→20～24歳」は転出超になっている。
- ・年齢を重ねるごとに、転出・転入の差が小さくなる。

人口増減・地域間流動②

転入数・転出数の上位地域（2020年）

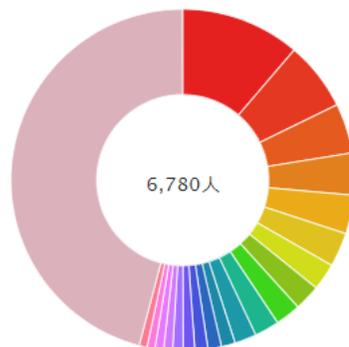
転入数内訳



- 1位 福井県坂井市 735人 (11.50%)
- 2位 福井県鯖江市 407人 (6.37%)
- 3位 福井県越前市 347人 (5.43%)
- 4位 石川県金沢市 301人 (4.71%)
- 5位 福井県敦賀市 231人 (3.62%)
- 6位 福井県大野市 203人 (3.18%)
- 7位 愛知県名古屋市長屋市 186人 (2.91%)
- 8位 福井県あわら市 180人 (2.82%)
- 9位 福井県永平寺町 169人 (2.64%)
- 10位 大阪府大阪市 138人 (2.16%)

【出典】
総務省「住民基本台帳人口移動報告」

転出数内訳

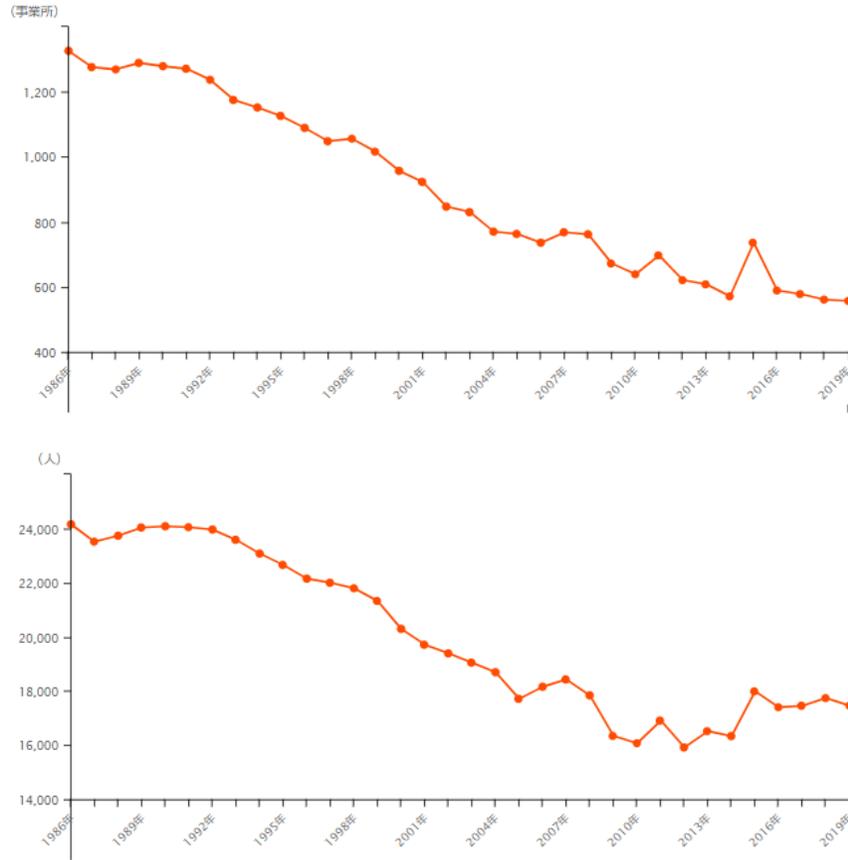


- 1位 福井県坂井市 763人 (11.25%)
- 2位 福井県鯖江市 441人 (6.50%)
- 3位 石川県金沢市 319人 (4.71%)
- 4位 福井県越前市 268人 (3.95%)
- 5位 大阪府大阪市 248人 (3.66%)
- 6位 愛知県名古屋市長屋市 220人 (3.24%)
- 7位 京都府京都市 173人 (2.55%)
- 8位 福井県永平寺町 166人 (2.45%)
- 9位 福井県敦賀市 162人 (2.39%)
- 10位 福井県あわら市 157人 (2.32%)

- ・転出数は転入数を上回っている。
- ・福井市へ転入、転出数では、坂井市・鯖江市の割合が最も大きい。
- ・石川県金沢市からの転入と転出数は上位5位以内に位置している。

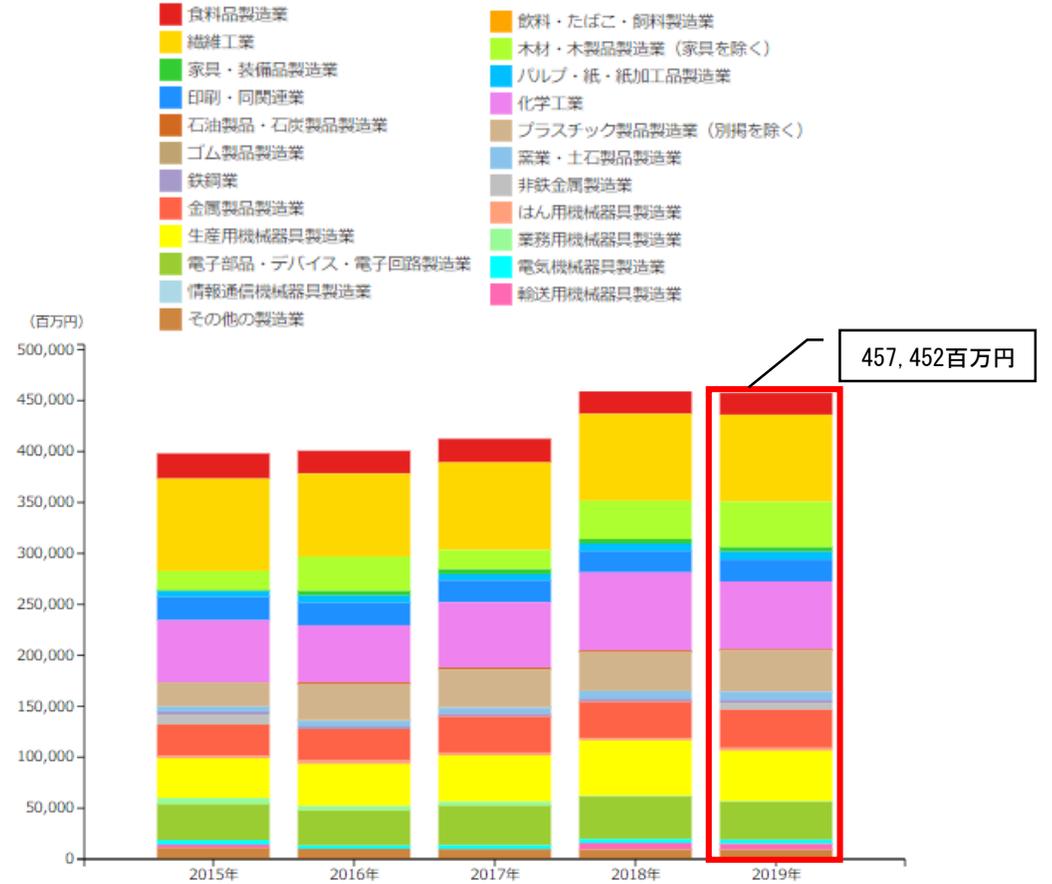
製造業

事業所数・従業者数・の推移



・事業所数は、2008年：762所から2019年：577所まで減少傾向。
 ・従業者数は、2008年：17,835人から2012年：15,915人まで減少傾向にあるものの、その後一転して、2019年：17,457人まで増加傾向にある。

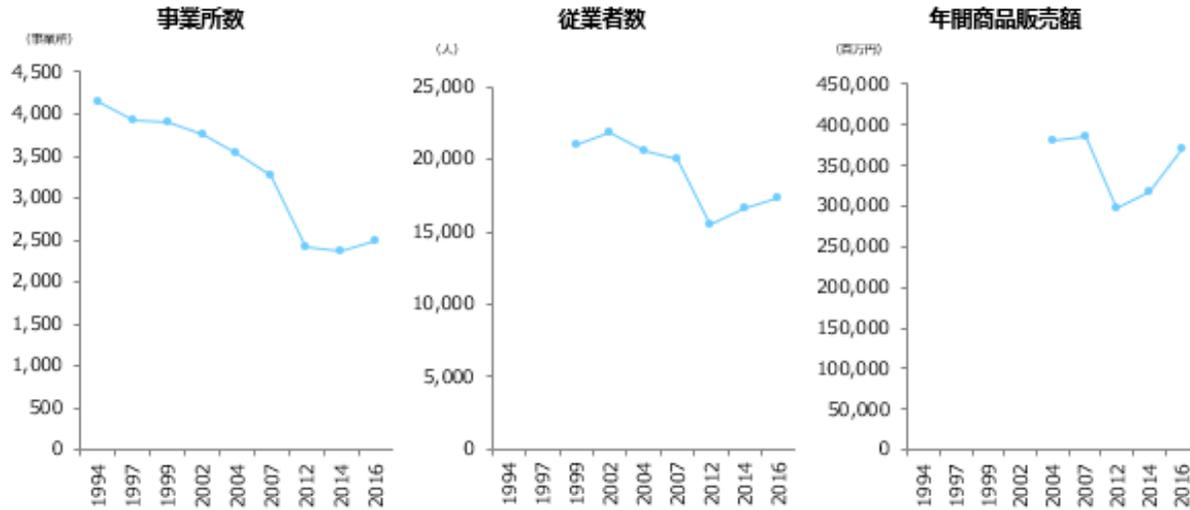
産業別製造品出荷額等の変化



・「繊維工業」「化学工業」「生産用機械器具製造業」「木材・木製製造品」「プラスチック製品製造業」の5部門（計285,852百万円）で、全体の6割強を占めている。

小売業

事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移



【出典】経済産業省「商業統計調査」 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

【注記】2007年以降は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサス-活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間（表示年）の比較が行えない。

- ・小売業事業所数は、1994～2012年にかけて減少傾向。
- ・従業者数は、2002年：21,865人から2012年：15,508人へ減少している。
- ・年間商品販売額は、2007年から2012年にかけて急落した後に、2012年から2016年にかけて増加傾向にある。

※2007年以降は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサス-活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間（表示年）の比較が行えない。

産業別小売業事業所数の変化



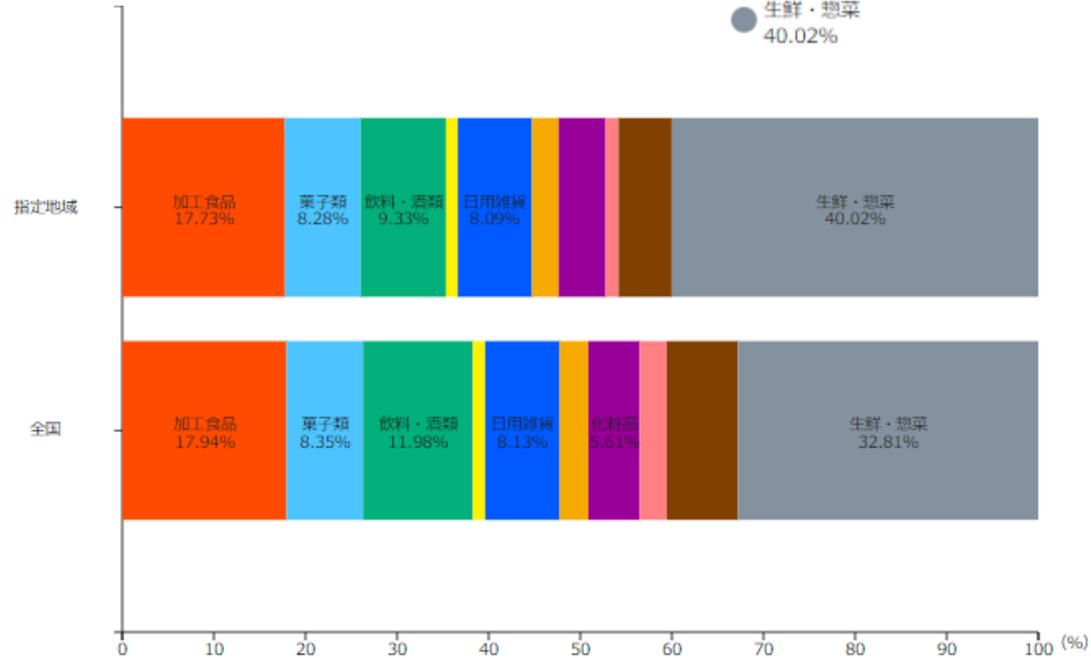
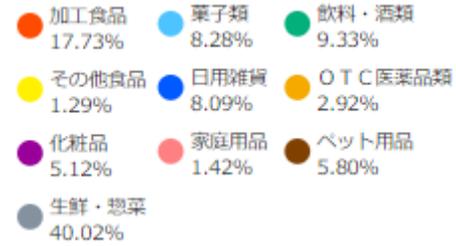
【出典】経済産業省「商業統計調査」 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

【注記】2007年以降は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサス-活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間（表示年）の比較が行えない。

- ・1994年～2016年を通して「機械器具・その他の小売業」が全体の5割近くを占めている。
- ・2007年～2012年にかけて全ての業種で減少している。

小売・卸売業（消費）

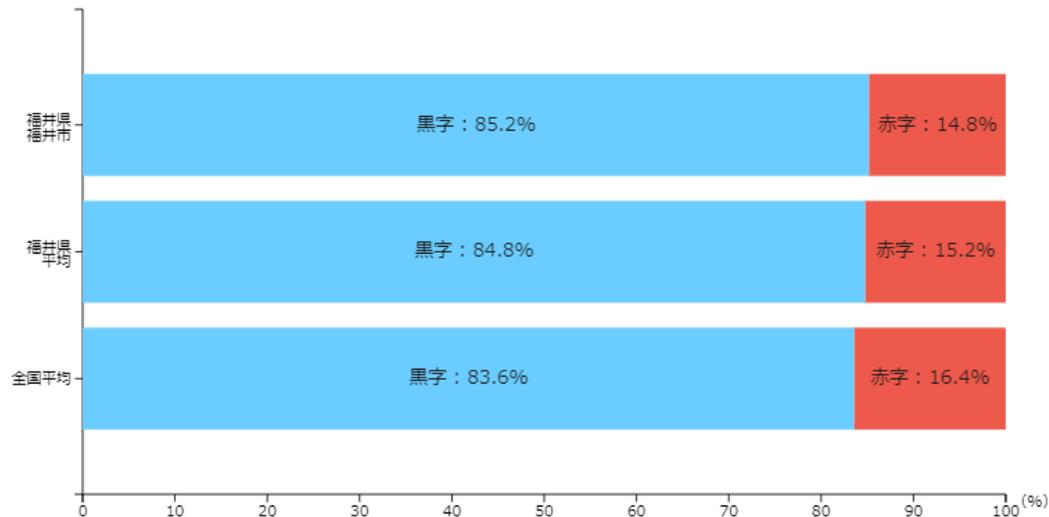
消費の傾向（POSデータ）（2020年4月）



・「生鮮・惣菜」の割合は、全国平均の32.81%よりも7%近く大きく、40.02%となっている。

その他

黒字赤字企業比率（2016年：すべての大分類）



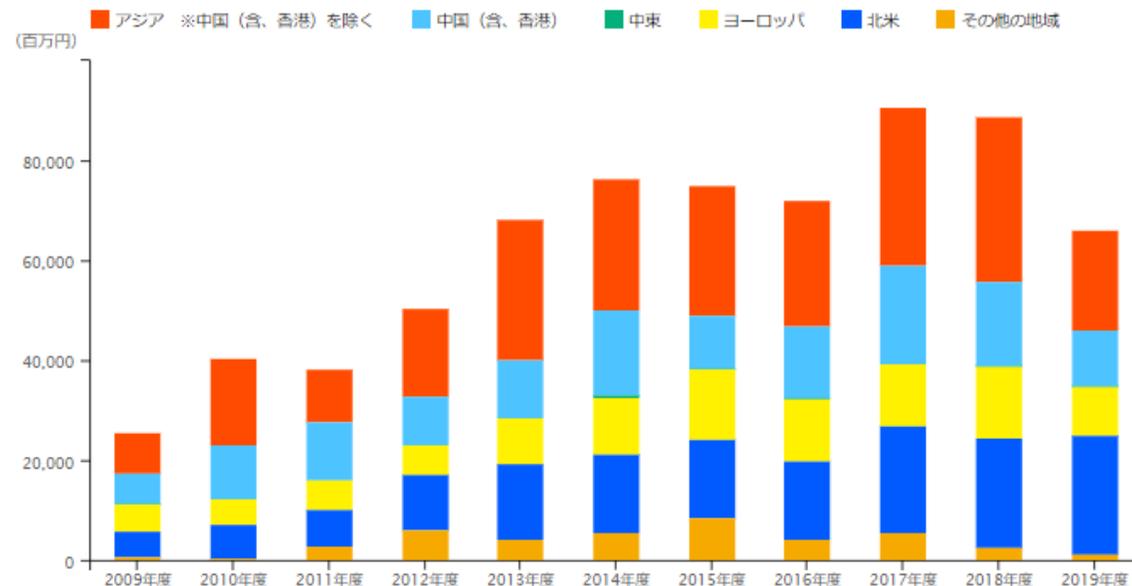
【出典】
総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

【注記】
営業利益ベースの数値に基づき算出。

【その他の留意点】
経理事項集計対象外企業については除外して集計。
平成24年経済センサス活動調査においては、東日本大震災の影響で、以下の7自治体の調査は行っていない。
福島県楢葉町、福島県富岡町、福島県大熊町、福島県双葉町、福島県浪江町、福島県葛尾村、福島県飯館村

・福井市における黒字企業比率は85.2%で、全国平均83.6%を若干上回っている。

企業の海外取引額分析（輸出額）：製造業：都道府県単位

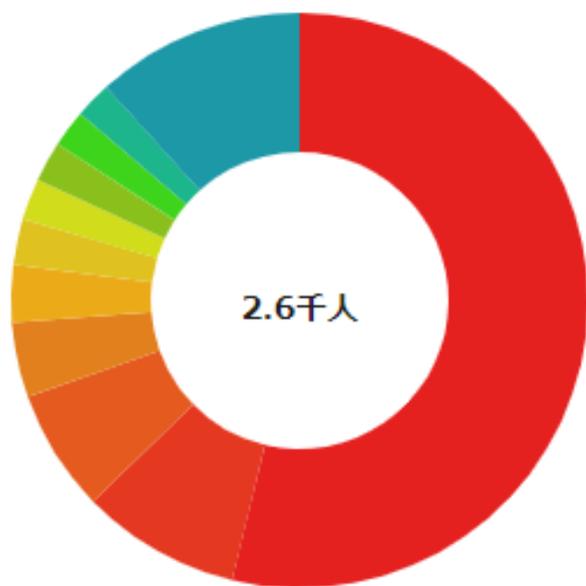


・海外との取引金額は、2009年から2018年まで増加傾向にあったが、2019年には減少し66,153百万円となった。
・2018年から2019年にかけて取引総額が減少したが、北米への輸出は継続して増加している。

その他

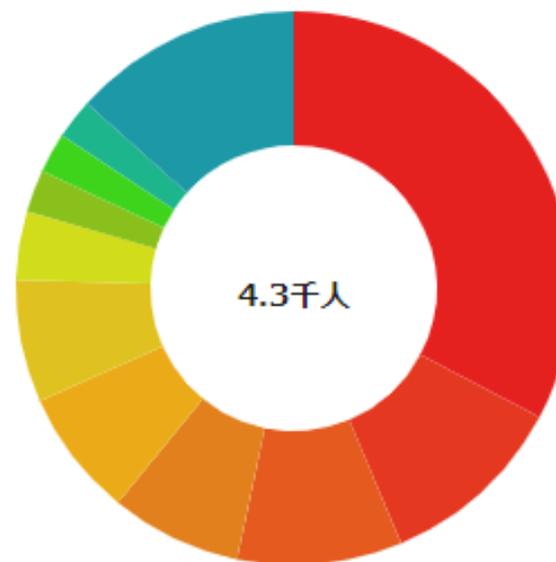
都道府県間の流出入状況（同地域間を含む） （2019年）

流入進学者



- 1位 福岡県 1.4千人 (53.76%)
- 2位 愛知県 0.2千人 (8.92%)
- 3位 石川県 0.2千人 (6.87%)
- 4位 富山県 0.1千人 (4.21%)
- 5位 岐阜県 0.1千人 (3.23%)
- 6位 滋賀県 0.1千人 (2.58%)
- 7位 大阪府 0.1千人 (2.32%)
- 8位 京都府 0.1千人 (2.28%)
- 9位 三重県 0.1千人 (2.09%)
- 10位 兵庫県 0.1千人 (2.05%)
- その他 0.3千人 (11.69%)

流出進学者



- 1位 福岡県 1.4千人 (32.72%)
- 2位 京都府 0.5千人 (10.95%)
- 3位 石川県 0.4千人 (9.59%)
- 4位 大阪府 0.3千人 (7.65%)
- 5位 愛知県 0.3千人 (7.42%)
- 6位 東京都 0.3千人 (7.14%)
- 7位 兵庫県 0.2千人 (4.00%)
- 8位 滋賀県 0.1千人 (2.47%)
- 9位 岐阜県 0.1千人 (2.36%)
- 10位 富山県 0.1千人 (2.33%)
- その他 0.6千人 (13.37%)

- ・「流入進学者」から「流出進学者」を引いた「純流出者」は1.7千人。
- ・県外からの流入進学者においては、愛知県からの流入が最も多い。
- ・県外への流出先としては、京都府が最も多い。

番外編

V-RESASに見る
福井県の姿
～コロナ禍による影響～

福井商工会議所 創業・経営支援課

福井県の滞在人口の動向 - 推定居住地ごとの2019年同週比の推移

2019年12月30日 ~ 2022年3月27日

代表観測地点

時間帯

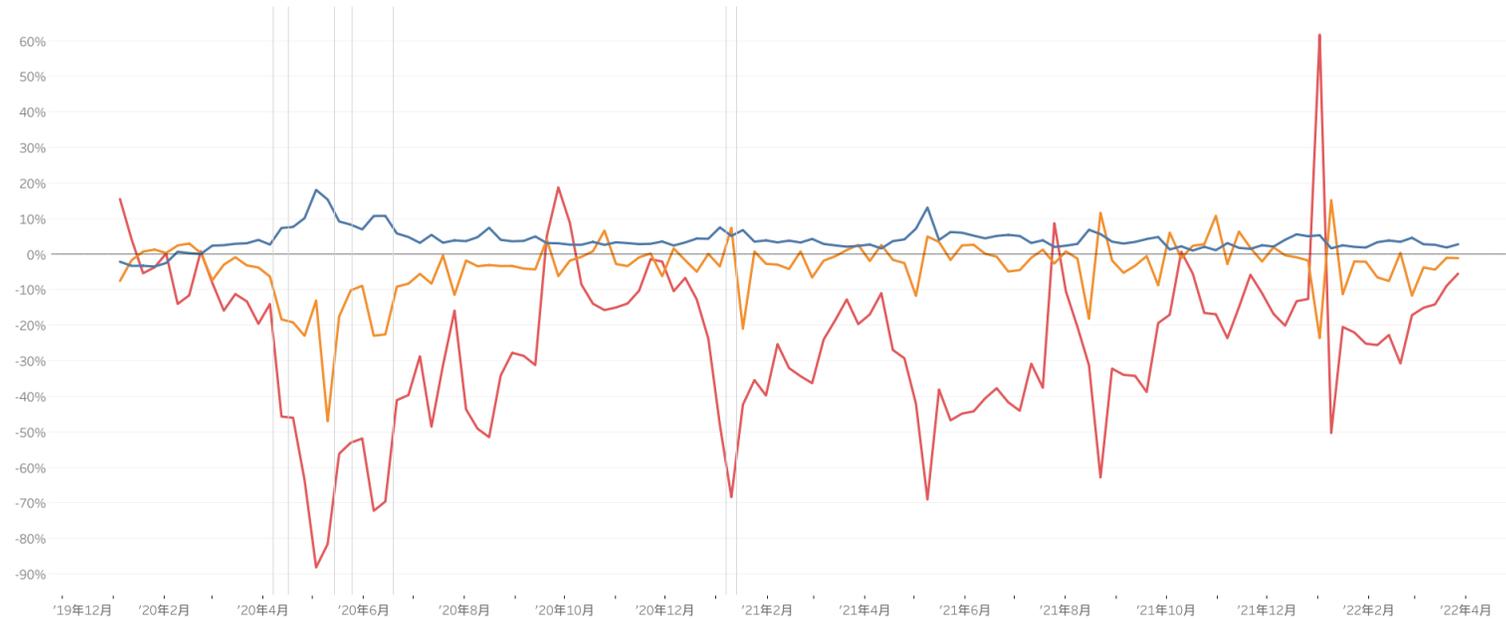
福井県全体

すべての時間帯

滞在人口の推定居住地：

■ 市区町村内 ■ 都道府県内 ■ 都道府県外

市区町村内: 当該市区町村に滞在している人口のうち、推計居住地が同じ市区町村である人口
都道府県内: 当該市区町村に滞在している人口のうち、推計居住地が同じ都道府県内の他の市区町村である人口
都道府県外: 当該市区町村に滞在している人口のうち、推計居住地が他の都道府県である人口



V-RESAS <https://v-resas.go.jp>

出典：株式会社Agoop「流動人口データ」（GPSデータを元に換算処理を施した人口換算値）を元に集計

市町村ならびに都道府県を跨いだ人の移動は2020年3月から大きく減少。特に、2020年5月における都道府県を跨いだ人の移動は、2019年同月に比べて90%近く減少していた。一方で、市区町村内での移動は、2020年3月以降に一貫して2019年の値を超えていた。

福井県の都道府県を跨いだ移動 - 都道府県を跨いだ移動の最新上位10都道府県

2019年12月30日 ~ 2022年3月6日

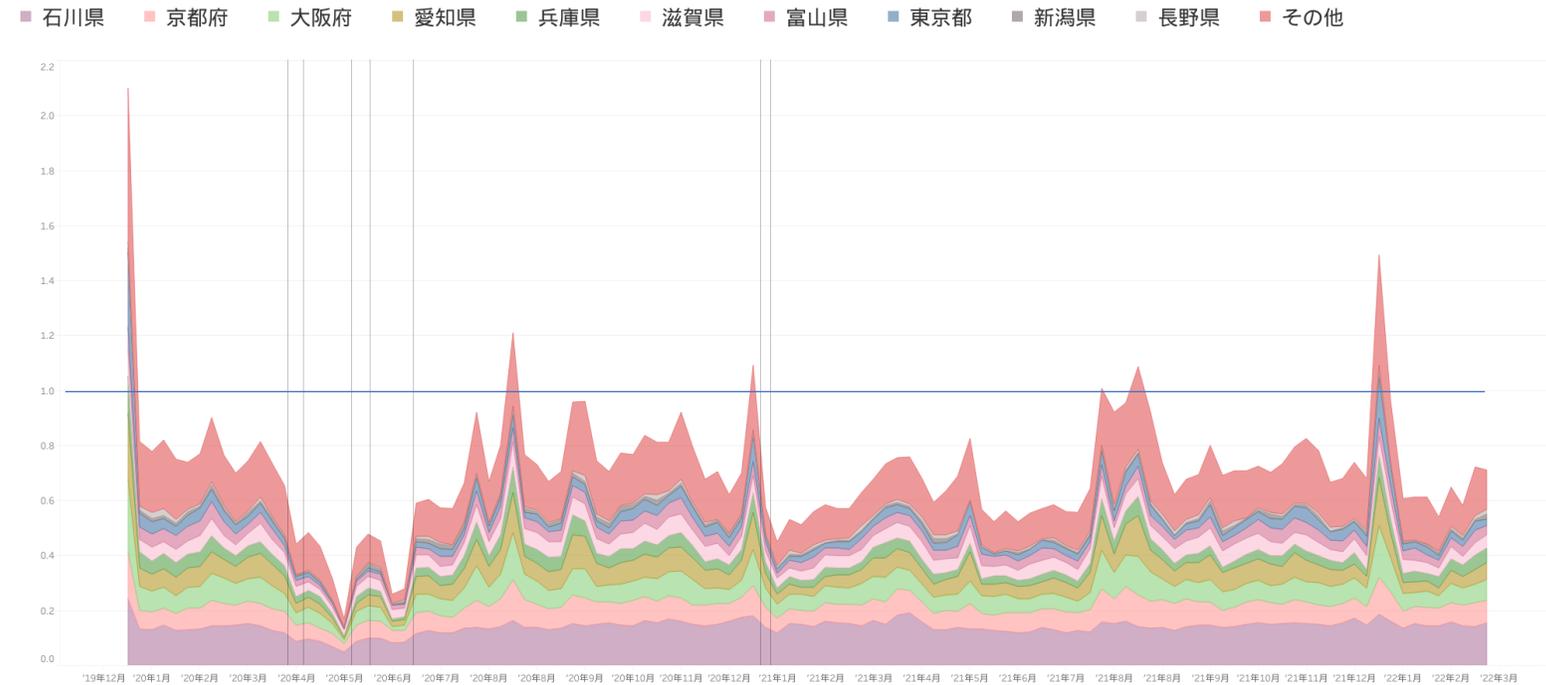
エリア

福井県全体

方向

他都道府県から当該都道府県・エリアへの移動

最新上位10都道府県



V-RESAS

<https://v-resas.go.jp>

出典：株式会社Agoop「流動人口データ」
(GPSデータを元に換算処理を施した人口換算値)を元に集計

※左軸に記載されている数字(指数)は、2019年同週比を意味するものではなく、2019年の週平均の都道府県を跨いだ移動人口を1とした場合の数字

新型コロナウイルス感染症が国内で初めて確認された2020年1月から、都道府県を跨いだ移動(他都道府県→福井県)は縮小している。以後、都道府県を跨いだ移動が2019年の週平均を超えた月(左軸:1.0を超えた月)は、2020年8月と12月、2021年7月・8月・12月のみである。

福井県の都道府県を跨いだ移動 - 都道府県を跨いだ移動の最新上位10都道府県

2019年12月30日 ~ 2022年3月6日

エリア

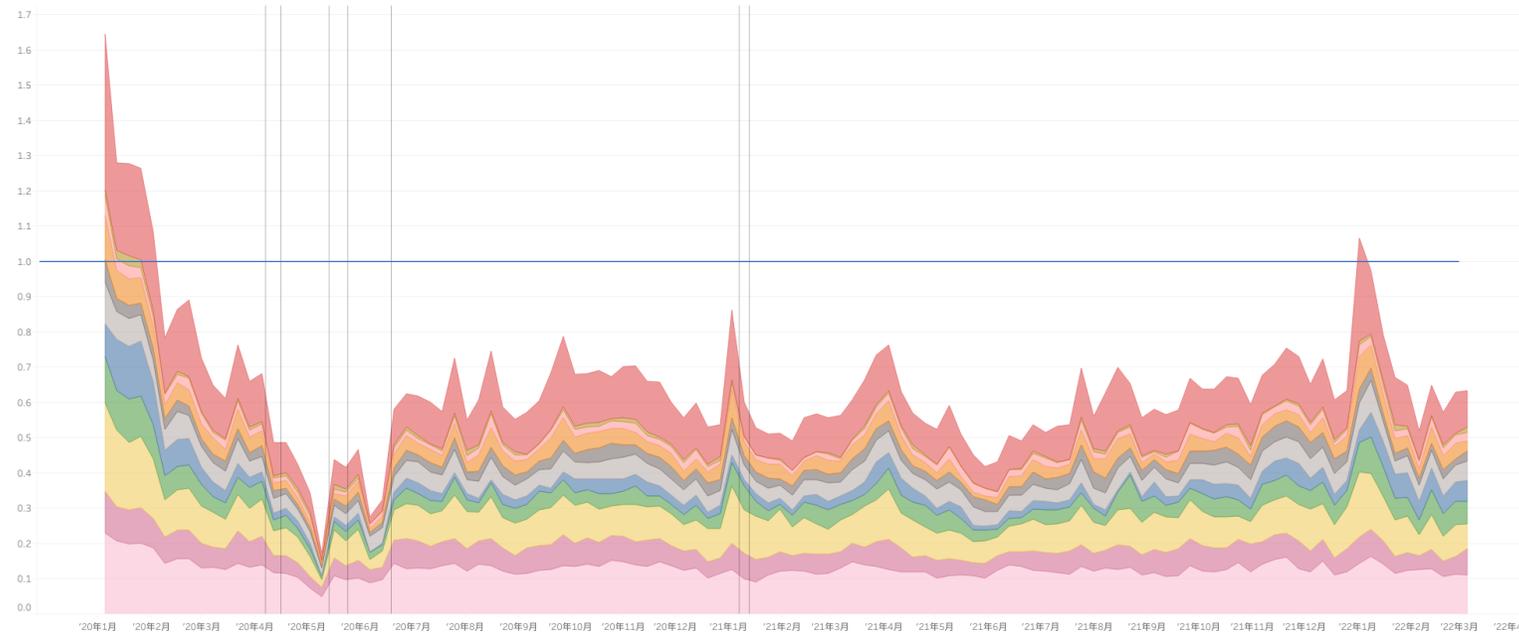
福井県全体

方向

当該都道府県・エリアから他都道府県への移動

最新上位10都道府県

石川県 京都府 大阪府 愛知県 東京都 滋賀県 富山県 兵庫県 岐阜県 埼玉県 その他



V-RESAS

<https://v-resas.go.jp>

出典：株式会社Agoop「流動人口データ」
(GPSデータを元に換算処理を施した人口換算値)を元に集計

※左軸に記載されている数字(指数)は、2019年同週比を意味するものではなく、2019年の週平均の都道府県を跨いだ移動人口を1とした場合の数字

都道府県を跨いだ移動(福井県→他都道府県)は、2020年1月から5月まで大きく減少。以後、2019年の週平均を超えた月(左軸:1.0を超えた月)は、12月第5週のみであった。

飲食店情報の閲覧数

福井県のジャンルごとの2019年同週比の推移

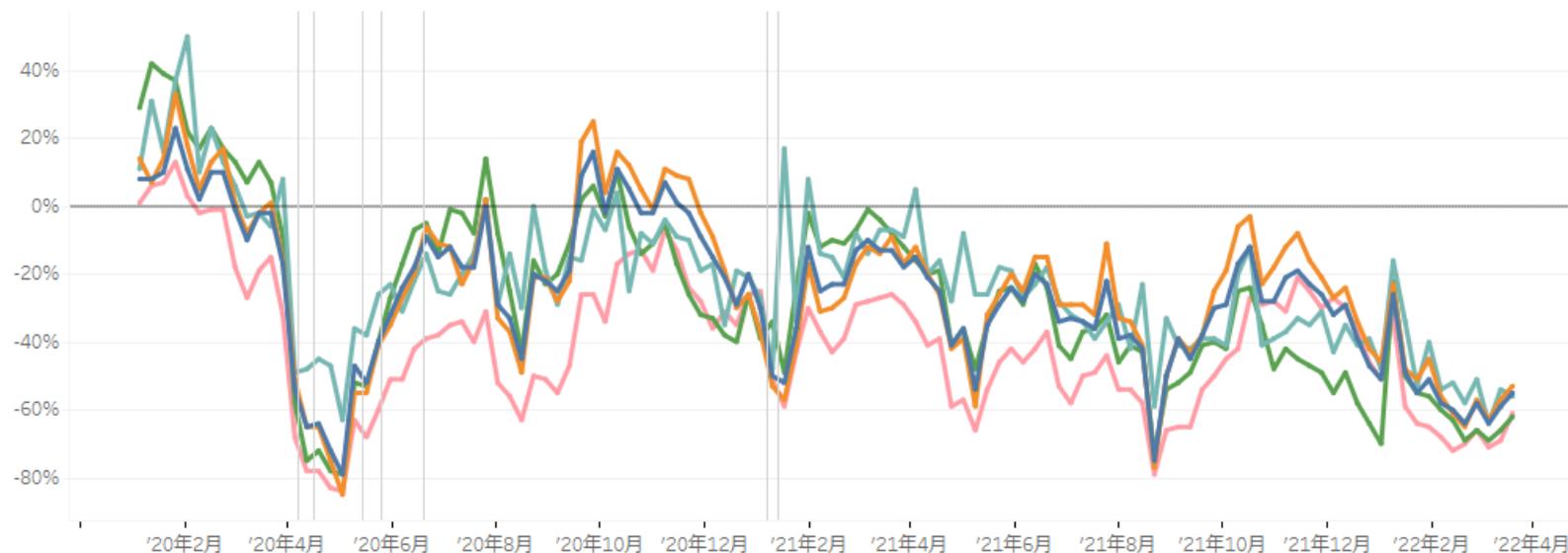
2019年12月30日～2022年3月20日

エリア

福井県全体

飲食店のジャンル：

- すべて
- 和食
- 中華
- 洋食・西洋料理
- 居酒屋・バー



飲食店情報の閲覧数は、2020年1月から5月にかけて全体的に大きく低下し、6月から11月にかけて回復するも、12月には再度低下している。2021年4月以降は、2019年同週比を下回っていた。居酒屋・バーについては、2020年2月以降は、常にマイナスとなり、2019年の閲覧数を超える月が無かった。

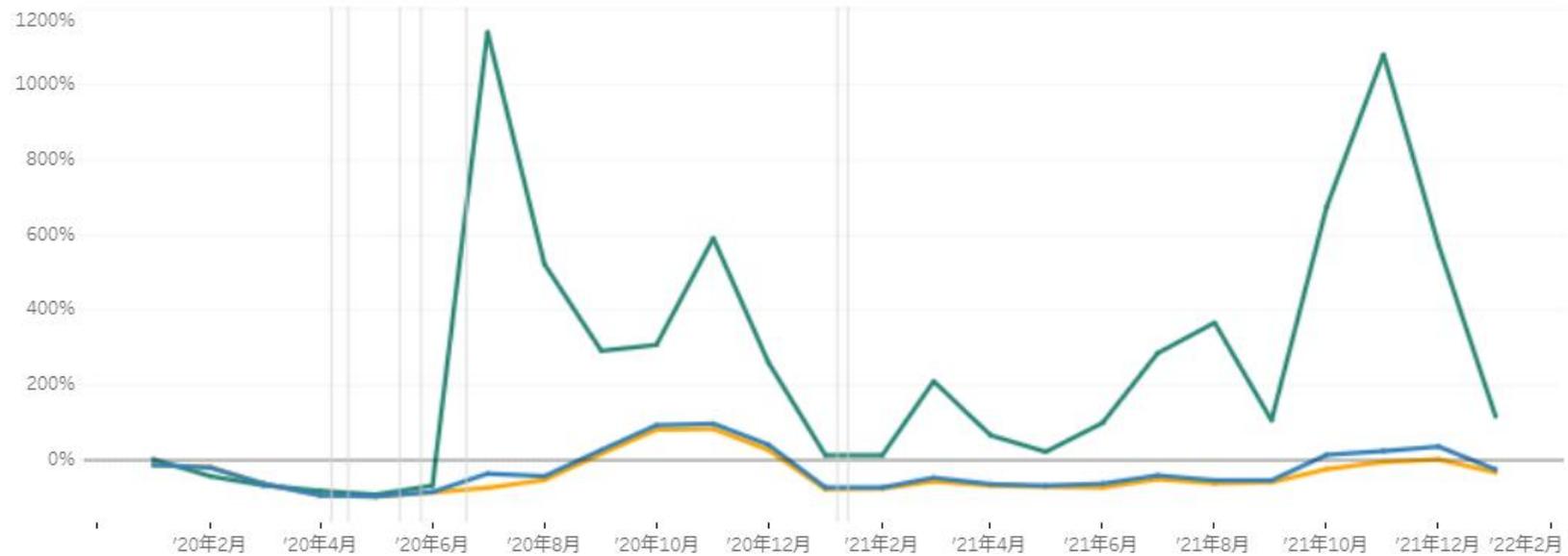
福井県の予約代表者の居住地ごとの2019年同月比の推移

2020年1月1日～2022年1月31日

エリア 宿泊者の分類

予約代表者の居住地：

すべて 都道府県内 都道府県外



2020年6月以降に福井県内で宿泊する福井県民が急増し、2019年同月と比較して大きく上回った（2020年7月から始まった「GoToキャンペーン」の影響と思われる）。福井県外からの宿泊客は、2020年9月から12月まで前年同週の水準を上回ったものの、それ以降は前年同週を超えることは無かった。

福井県の旅行者の宿泊動向 - 旅行者の移動の最新上位10都道府県

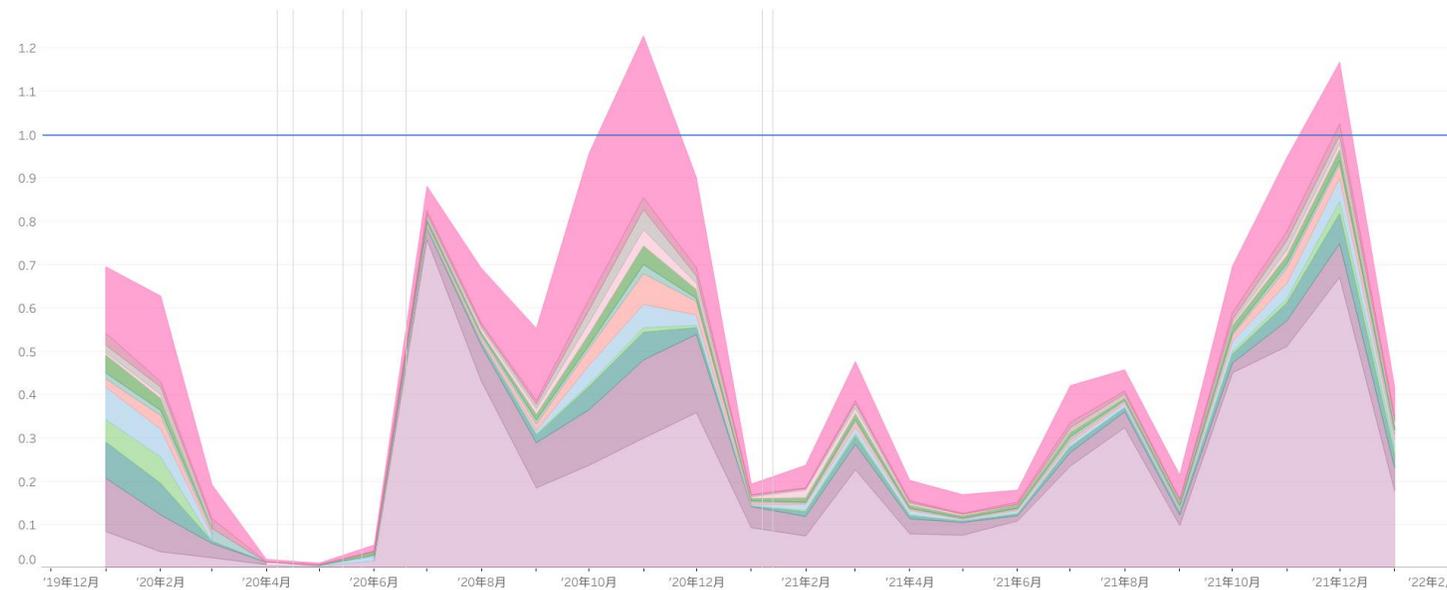
2020年1月1日 ~ 2022年1月31日

方向

福井県からの旅行者の宿泊地

最新上位10都道府県：

福井県 石川県 大阪府 千葉県 東京都 京都府 静岡県 愛知県 兵庫県 滋賀県 三重県 その他



V-RESAS <https://v-resas.go.jp>

出典：観光予報プラットフォーム推進協議会（事務局：日本観光振興協会）

※左軸に記載されている数字（指数）は、2019年同月比を意味するものではなく、2019年の月平均の宿泊者数を1とした場合の数字

2019年の月平均の宿泊者数を超えた月（左軸の1.0を超えた月）は、2020年11月と2021年12月のみであった。宿泊者数の構成は、福井県が最多で、次に石川県、大阪府と続いている。

福井県の旅行者の宿泊動向 - 旅行者の移動の最新上位10都道府県

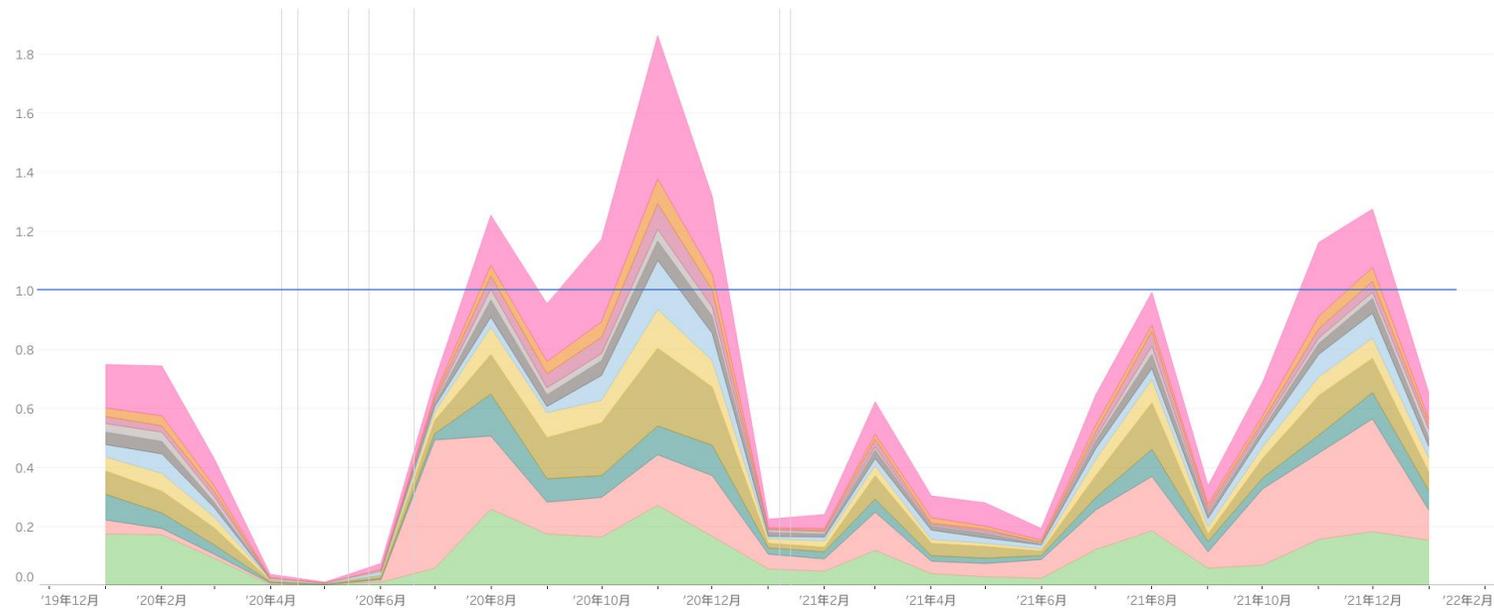
2020年1月1日～2022年1月31日

方向

福井県への旅行者の居住地

最新上位10都道府県：

■ 大阪府 ■ 福井県 ■ 京都府 ■ 愛知県 ■ 兵庫県 ■ 東京都 ■ 滋賀県 ■ 奈良県 ■ 岐阜県 ■ 神奈川県 ■ その他



V-RESAS <https://v-resas.go.jp>

出典：観光予報プラットフォーム推進協議会（事務局：日本観光振興協会）

※左軸に記載されている数字（指数）は、2019年同月比を意味するものではなく、2019年の月平均の宿泊者数を1とした場合の数字

福井県への旅行者は2020年2月以降大きく減少。2020年6月から客足が戻り始め、2020年8月にかけて回復し、特に12月は大きく増加している。2021年においては11月と12月のみが、2019年の水準を上回った。